

2018年5月21日

学校法人 日本大学
理事長 田 中 英 壽 殿
学 長 大 塚 吉兵衛 殿

首都圏大学非常勤講師組合
委 員 長 松村 比奈子
同 日本大学ユニオン準備会
代 表 志田 慎
(公印省略)

緊急要求申入書

拝啓 2018年5月6日、関西学院大学と日本大学とのアメリカンフットボール定期戦において、日大選手の意図的とみられる危険なタックルによって関学大選手が負傷する事態が引き起こされました。関学大受傷選手の退場後に、日大コーチから危険タックルを行った選手に対して注意等は一切なく、審判から危険行為による退場を命ぜられるまで、この選手がプレーを続け再び危険なタックルを行った状況などから、当該危険行為は、日大アメリカンフットボール部内田正人監督の指示により行われたのではないかと推測され、マスコミ各社は、試合終了後の状況や関係者への取材などを連日報道し、日本大学と内田氏の責任が厳しく問われる事態となっています。

5月19日、内田氏は、ようやく公の場に現れ、負傷させられた選手等に謝罪するとともに、監督を辞任する意向を表明しました。しかし、この事態は、人事部長及び人事担当常務理事を兼務する内田氏の日大における強大な権限を背景に、内田氏の判断や指示が日大アメリカンフットボール部における絶対方針となり、本来選手に求められるルールを遵守しマナーをもってプレーを行うフェアプレーの精神に全く反することであっても、選手もコーチも方針に従わざるを得ない現在の日本大学の異常な体質と状況が顕著になったものと指摘せざるを得ません。監督を辞任するだけで、人事部長及び人事担当常務理事を継続し強大な権限を握り続けるならば、事実経過の解明と責任の所在を明らかにして、再発防止の有効な措置をとることは困難です。

今回の事態を、単に日本大学の評価を貶めた事態と考えるだけでなく、日本大学における理事会の経営体質・姿勢や学務における研究・学問分野の再生を図る機会とできるかどうか、日本大学のすべての関係者に問われているのではないのでしょうか。

以上の立場から、当組合はここに、改めて貴学に対して要求を申入れます。

敬具

記

1. 要求事項

(1) 「教学に関する全学的な基本方針」における科目数の2割削減、および専任教員の基準授業時間数の5講座(10時間)から8講座(16時間)への増加の方針(非常勤講師ゼロ化計画)を撤回すること。

(2) 「非常勤講師規程」における「契約更新上限を4回とする」規定(非常勤講師5年雇止め)を撤廃すること。

(3) 三軒茶屋キャンパスにおける英語科目全体の語学学校への委託を中止し、2018年3月末に雇止めされた非常勤講師のうち、希望者全員を復職させること。

(4) 上記、(1)、(2)、(3)の方針の決定と実施・施行の強行の権限を持ち、最も重い責任を有する内田正人常務理事兼人事部長を解任・解職とすること。

(5) 内田正人常務理事兼人事部長の任命責任者として、田中英壽理事長が理事および理事長職を辞職すること。

(6) 日本大学の理事会および経営陣はすべて退陣し刷新すること。

(7) 上記(1)、(2)、(3)の方針決定と実施・施行の強行を推し進め、交渉担当者として責任を有する米崎寛人事部特任事務長兼人事部人事課長を更迭すること。

(8) 上記(3)の方針決定と実施・施行の強行を推し進め、交渉担当者として責任を有する三軒茶屋キャンパス執行部堀事務長、及び工藤学務委員長を更迭すること。

2. 当組合連絡先

03-6745-5622(志田 慎 FAX) 070-5010-3765(志田 慎 携帯)

[Web 公開版は省略](今井 FAX) 090-4006-2990(今井 携帯)

3. 本件担当者

志田 昇(首都圏大学非常勤講師組合 書記長)

志田 慎(首都圏大学非常勤講師組合 副委員長、日本大学ユニオン準備会代表)

井上 悦男(首都圏大学非常勤講師組合 副委員長 日本大学ユニオン準備会副代表)

大野 英士(首都圏大学非常勤講師組合 副委員長、日本大学ユニオン準備会事務局長)

今井 拓(首都圏大学非常勤講師組合 副委員長、日本大学ユニオン準備会事務局次長)

本件については今井までご連絡ください。FAX は志田 慎、今井両方にお送りください。

以上